



令和 8 年 3 月

米沢市文化財年報 No.38

米沢市教育委員会



▲国の重要文化財（建造物）に指定された幸徳院観音堂

令和 8 年 1 月 15 日付けで、幸徳院観音堂（こうとくいんかんのんどう 笹野観音堂）が国の重要文化財に指定されました。本市における建造物での国指定は、昭和 48 年 6 月に指定された旧米沢高等工業学校本館（山形大学米沢キャンパス内）以来 2 件目です。

幸徳院は、笹野山東麓に位置する真言宗ぶざん豊山派の寺院です。置賜三十三観音霊場の第 19 番札所、笹野観音として広く信仰を集めています。現在の観音堂は、天保 14 年（1843）に再建されたもので、いりも やづくりひらり入母屋造平入の大型三間堂で、さんげんどう軒唐破風を付けた入母屋造妻入のつまいり向拝を付し、屋根全体を厚い茅で葺いています。東北地方では珍しく正面の外陣を開放し、外陣と向拝が形成する広い参拝空間を豊富な彫刻で飾っています。当地における江戸時代末期の観音堂のあり方を知る上で重要と評価されました。

今回の指定により本市の国指定文化財（国宝含む）は 31 件となりました。なお、国の文化財指定に伴い、笹野観音堂としての県指定は解除となります。

一般文化財事業

一般文化財事業では、今年度も国庫補助事業をはじめとして多岐にわたる事業に取り組みました。以下、特に重点を置いた事業について紹介します。

【国指定史跡上杉治憲敬師郊迎跡（普門院本堂）保存修理事業】

上杉治憲敬師郊迎跡は、米沢藩を復興させた名君として知られる上杉治憲（鷹山公）が師の細井平洲を郊迎した地として、昭和10年に国の史跡となりました。今年度は普門院本堂工事の7年目で、本堂内部の建具の造作、左官工事、屋根工事を中心に行いました。

本堂内部の壁は土壁や塗壁、板壁など使い分けられており、中でも対面の間の壁は、紙を何十に張って仕上げています。茅葺の屋根はほぼ葺きあがり、残すは本堂と庫裏を繋ぐ取次のみとなっています。

今年度は学生向けの保存修理工事の現場説明会なども行い、公開や歴史学習の場の提供を行っています。



▲保存修理工事が進む普門院本堂

【文化財の調査】

上郷地区の桃源院は、伊達氏3代に仕えた鬼庭良直が創建したと伝わる寺院です。伊達家が現在の宮城県に移った際、桃源院も一緒に移動しましたが、当地に残った人々により信仰のよりどころとして再建されました。境内にある観音堂は、直江兼統の妻、お船の方が定めたと伝わる置賜三十三観音の札所であり、お堂全面に施された精巧な彫刻が特徴です。

今年度は米沢鶴城高校と協働で文化財調査を行い、ドローンによる撮影、構造調査、図面作成、奉納物調査を行いました。調査の結果、建築当初の範囲や改修履歴などを知ることができました。この成果は今後の文化財保護に役立てていきます。



▲米沢鶴城高校生徒の調査風景

【文化財の修理】

上杉神社が所蔵する「色々威腹巻」は、上杉謙信が着用したものと伝わり、昭和34年に国の重要文化財に指定されています。今年度は、2か年の修理計画の最終年で、漆が剥落した部分の補修、肩の部分にある高紐（鎧の後胴の先端と前胴の上部をつなぐ紐）の劣化による交換と、今後高紐の劣化を抑えるための架台の制作等を行いました。修理が完了した「色々威腹巻」は、令和8年度に上杉神社稽照殿で公開予定です。同じく修理が完了した国宝「上杉本洛中洛外図屏風」については、特集記事にて詳細を掲載しています。



▲色々威腹巻修理完了後の納品状況

【上杉文書調査事業】

令和3年度から7年度にかけての5年間、文化庁の国重要文化財等保存・活用事業費補助金「地域活性化のための特色ある文化財調査・活用事業」を受けて、「上杉文書」（米沢市上杉博物館所蔵）の詳細調査を行いました。「上杉文書」は上杉家に伝来した史料群であり、これまでも雄松堂により発行されたマイクロフィルムとその史料名が記載されている『マイクロフィルム版 上杉文書目録』（市立米沢図書館、1969年）により、史料の公開・活用は行われていましたが、より詳細なデータを採録し、報告書（目録）を作成することになりました。

文書は内容を確認し史料名をつけ、作成年代（時代）や作成者、受給者、紙数、紙の種類、法量^{ほうりょう}など、絵図はこの他にも彩色の有無や方角の記載などについて、史料1点ごとの詳細情報を採録しました。

また、これまで公開されていた分類を見直す必要性も出てきたため、「上杉家」「軍政」「家臣団統制」「藩政」「法制」「幕末維新时期」「伊佐早謙^{いさはやけん}関係」「典籍」「諸家文書」「絵図」と大きく10の項目に、そこからさらに細かい項目へと再編成しました。

今回の事業のなかで、これまでの保存方法を改めた史料もあります。米沢市上杉博物館に収蔵されるまでの保存管理の過程で、数百通の書状が複数の冊子の状態に製本されていたものもありました。そのため、冊子の解体を行い、史料を本来あるべき形に戻して保存管理を行うこととしました。

この他に、画像のない絵図史料の撮影、報告書（絵図編）へ画像の全点掲載や、米沢市上杉博物館HP内で検索可能な「上杉文書データベース」の構築も行いました。

史料の総点数は文書8,907点、絵図241点となり、文書編3分冊、絵図編1冊、計4冊の報告書（目録）が完成しました。県内外の図書館や博物館で所蔵予定です。



▲目録作成風景



▲絵図調査風景

【旧米沢高等工業学校本館の美観向上整備事業】

山形大学工学部の前身となった旧米沢高等工業学校は、明治43年10月1日に全国第7番目の高等工業学校として開校し、当時の校舎（本館）が国の重要文化財に指定されています。

近年の雪害や風雨の影響で建物の傷みが顕著になってきたことから、山形大学が今年度から7か年計画で美観向上整備事業を開始し、国・山形県・本市が支援しています。今年度は建物の現状調査と工事設計を行っており、来年度から本格的な工事が始まります。



▲現状調査用に組まれた足場

（写真提供：山形大学工学部）

上記の他、継続事業として市指定史跡直江石堤や国・県指定文化財の管理補助事業、民俗文化財の継承事業などへの支援を行っています。

埋蔵文化財事業

埋蔵文化財事業は、大規模開発事業に伴う芳泉町^{ほうせんまち}地内の分布調査、個人住宅建設に伴う^{はせがみ}馳上遺跡、^{だいのうえ}台ノ上遺跡（第18次）の発掘調査を中心に実施しました。この他、今年度から史跡館^{たて}山城跡の保存活用計画策定に取り組んでいます。以下、主な事業について紹介します。

【市内遺跡発掘調査事業】

埋蔵文化財に関する発掘届及び分布調査の依頼件数は、令和8年2月28日現在で44件で、試掘・確認調査は12件、現地踏査等は32件でした。

このうち個人住宅関係の2件で緊急発掘調査を実施しました。また、大規模開発に伴う分布調査で埋蔵文化財包蔵地が1か所新しく発見されました。



▲下新田地区試掘トレンチ



▲大壇A遺跡試掘調査風景



▲置賜学園東遺跡試掘調査風景



▲米沢城東二の丸跡工事立会風景

【芳泉町地内の分布調査】

民間事業者による工場建設に伴い、芳泉町地内で分布調査（現地踏査・確認調査）を実施しました。その結果、造成予定範囲の北東部で近世の^{どだんあと}土壇跡を新たに発見し、「芳泉土壇跡」として埋蔵文化財包蔵地の新規登録を行いました。

踏査では、3基の土壇跡が確認できました。そのため、遺構の詳細を把握するため、トレンチ（試掘溝）を設定した確認調査を実施しました。その結果、3基中、東側の1基は残存状態が良好であり、事業者側の配慮で現状保存することとなりました。それ以外の2基については残存状態が悪く、土地全体が大きく改変されていることから、工事の際の立会調査を実施することとなりました。また、土壇の裾部、法面、テラス部から、川原石を使用した石敷や石積が確認されました。ただし、限られた範囲での調査であったことから、寺社等の建物跡については確認できませんでした。トレンチ内から17世紀代の唐津産陶器が1点出土しました。

芳泉土壇跡がある地名（小字名）は「三光塚」と呼ばれており、土壇の隣接地には周知の埋蔵文化財包蔵地である「芳泉塚跡」が残存していることから、「土壇」と「塚」はそれぞれ関連する遺構であると推測できます。



▲試掘トレンチ



▲1号土壇石積検出状況



▲芳泉土壇跡調査風景

【馳上遺跡の発掘調査】

個人住宅建築に伴って緊急発掘調査を実施しました。馳上遺跡は、米沢市を代表する古墳時代、奈良・平安時代、中世の大規模な複合遺跡として知られており、これまで山形県埋蔵文化財センターによって複数次に亘って大規模な発掘調査が行われていますが、米沢市が実施する調査としては第1次調査になります。

調査では、^{たてあなじょう} 竪穴状遺構や土坑、溝跡が検出されました。竪穴状遺構から縄文時代の^{くぼみいし} 凹石、古墳時代の土器片、奈良・平安時代の土器片、中世・近世の陶磁器片といった、各年代の遺物が出土しました。そのことから、検出された竪穴状遺構については、遺跡が営まれていた時代よりも後の時代に掘られた遺構であり、遺構が埋められた際に周辺にあった各年代の遺物が混ざり合って混入したものと思われます。土坑からは、奈良・平安時代の土器片が出土しました。



▲馳上遺跡完掘全景（北西から）



▲竪穴状遺構完掘状況



▲馳上遺跡調査風景

【台ノ上遺跡の発掘調査（第18次）】

個人住宅建築に伴って緊急発掘調査を実施しました。台ノ上遺跡は、縄文時代中期中葉（^{だいぎ} 大木7・8式期）の大規模な集落遺跡として全国的にも有名な遺跡で、今回の発掘調査で第18次調査となります。

調査では、竪穴状遺構や土坑、ピット（小穴）が検出されました。また、遺物包含層には大量の土器片が含まれており、住宅建築部分の限られた範囲だけで数百点もの土器片が出土しました。遺物の整理作業は令和8年度に行う予定です。



▲台ノ上遺跡完掘全景（東から）

【埋蔵文化財の活用】

活用事業として、考古学等の専門家による資料調査・研究活動に協力しました。今年度は、国指定史跡「一ノ坂遺跡」や市指定史跡「戸塚山古墳群」出土資料の調査依頼がありました。今後も遺物の貸出依頼や調査依頼があれば積極的に協力していきます。

埋蔵文化財資料室は、米沢女子短期大学の授業や、一般の方々の見学で利用していただきました。さらに、中学生の職場体験（米沢チャレンジウィーク）として市内中学校の生徒を受け入れ、遺物の接合や写真撮影など、埋蔵文化財に関係する業務を体験してもらいました。



▲米沢女子短期大学の資料室見学



▲戸塚山古墳群資料調査風景



▲中学生の職場体験（平板実測）

《第 14 回 文化財事業特集：国宝 上杉本洛中洛外図屏風の修理》

特集では、24 年ぶりの修理が行われた上杉本洛中洛外図屏風について取り上げます。

【上杉本洛中洛外図屏風とは】

上杉本洛中洛外図屏風は、現存する数少ない狩野永徳の真筆作品の一つであり、天正 2 年 (1574) に織田信長から上杉謙信へ贈られ、以後米沢藩上杉家に伝来したという由来を持ちます。京都市中と郊外の諸名所を描き出す洛中洛外図は、江戸時代に流行しますが、桃山時代前期に遡る作例は、本図の他には 2 点が知られているにすぎません。

そのなかでも本図は、金雲の上に直接書かれた寺社・武家・公家の邸宅などを示す墨書や、登場する人物が圧倒的に多く、細密描写によって生き活きと表現されており、平成 7 年に国宝に指定されています。



▲上杉本洛中洛外図屏風（右隻） ※数字は 7 頁掲載の修理箇所

【屏風の修理】

上杉本洛中洛外図屏風は、平成 11・12 年に大規模な修理を行いました。それから 20 年以上が経過し、絵具層全体に膠（動物の骨や皮などから作る天然の接着剤）の接着力低下が見られ、尾背周囲の金雲部分にひび割れや亀裂が見られるなど、修理が必要となりました。修理に当たってはガバメントクラウドファンディング（ふるさと納税）を実施し、多くの方から御寄付をいただきました。

修理事業者は、以前から上杉本洛中洛外図屏風の修理・メンテナンスを手掛けてきた半田九清堂に依頼し、東京の工房で約半年をかけて修理を行いました。

【修理の方法】

○絵具や金箔の剥落止め

絵具層や金箔の状態に応じて、牛の膠で作る水溶液と、布海苔の抽出液からなる混合液を注し入れ、剥落止めとしています。

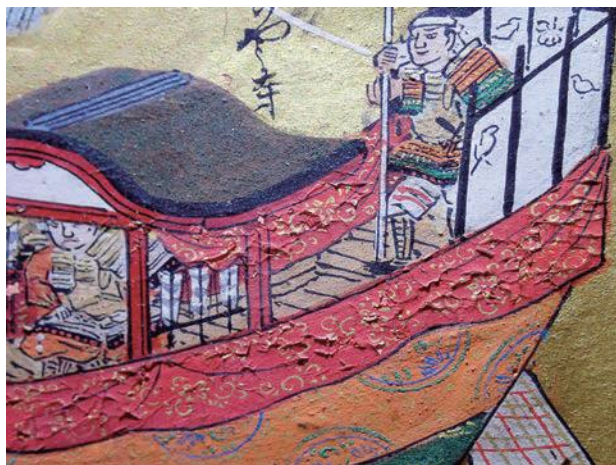


▲修理作業の様子

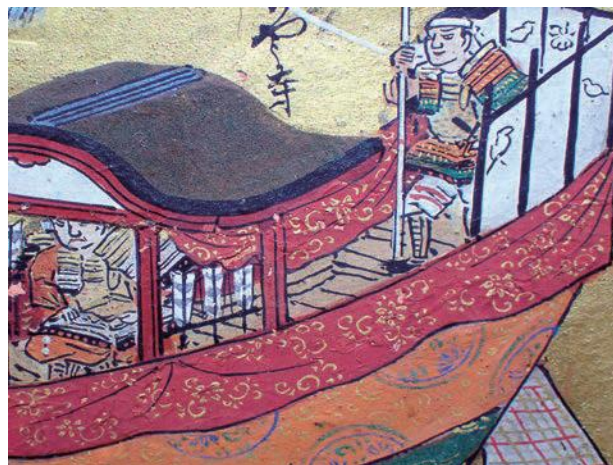
（絵具まくれ部分に膠を筆で注し入れる）

○浮きや糊離れ部分の接着

紙層の浮きや継ぎ部分の糊離れには、小麦粉澱粉^{でんぷん}を筆で注入し、接着する方法をとっています。



▲①絵具層の剥離（修理前）



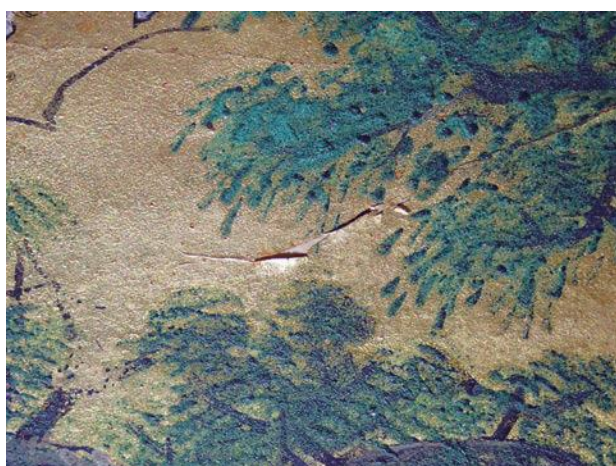
▲①絵具層の剥離（修理後）



▲②料紙のまくれ（修理前）



▲②料紙のまくれ（修理後）



▲③料紙の剥離（修理前）



▲③料紙の剥離（修理後）

【今後の予定】

令和8年4月18日(土)から5月17日(日)まで、米沢市上杉博物館の企画展示室にて、お披露目展示を行います。後年に良い状態で伝えたいという屏風にこめた技術者の思いを、ぜひ感じ取っていただければと思います。

令和7年度 米沢市文化財関係事業

区分	令和7年度の重点事項	令和7年度の主な事業内容
1. 文化財共通	<ul style="list-style-type: none"> ○事業の記録 ○文化財に関する諮問機関の開催 ○文化財行政推進大会への参加 ○文化財の普及・教育 ○博物館の登録等事務 	<ul style="list-style-type: none"> ・「米沢市文化財年報」No.38の発行 ・米沢市文化財保護審議会の開催 (第1回R7.7.28 第2回R8.3月23日開催) ・全国史跡整備市町村協議会東北地区協議会(岩手県平泉町R7.6.26~27)への参加、山形県史跡整備市町村協議会への参加(高島町R7.7.25) ・埋蔵文化財資料室等の見学対応、出前講座の実施 ・中学生の職場体験(米沢チャレンジウィーク)受け入れ ・登録博物館の審査事務(稽照殿)
2. 一般文化財	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財の調査 ○文化財の保存・活用 ○指定文化財保存管理の充実 ○指定文化財環境整備の促進 ○無形民俗文化財後継者の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財及び指定等文化財候補の調査(成島八幡宮など) ・米沢鶴城高校との文化財建造物実測調査、ドローン撮影 ・「幸徳院観音堂」の重要文化財指定 ・「銅造阿弥陀三尊像」、「毛氈鞍覆」の市有形文化財指定 ・国宝「上杉本洛中洛外図屏風」保存修理事業 ・国指定史跡「上杉治憲敬師郊迎跡」普門院本堂保存修理事業(18年目、本堂工事の7年目)、羽黒神社の再調査、設計 ・上杉文書調査事業(5か年事業の5年目)、調査報告書の刊行調査成果を報告するシンポジウムの開催 ・国指定文化財「服飾類(伝上杉謙信、景勝所用)」保存修理事業(第Ⅱ期4か年事業の2年目)の支援 ・国指定文化財「色々威腹巻(伝上杉謙信所用)」保存修理事業(2か年事業の2年目)の支援 ・国指定史跡「米沢藩主上杉家墓所」保存修理事業の支援 ・国指定文化財「旧米沢高等工業学校本館」美観向上整備事業(保存修理工事)の支援(7か年事業の1年目) ・国指定有形民俗文化財「行屋」の管理 ・国指定特別天然記念物「カモシカ」の保護 ・市指定天然記念物「ホタル」及び同「吾妻の白猿」の保護調査 ・文化財防火デー(堂森善光寺) ・県指定天然記念物「山上の大クワ」の管理 ・国指定史跡「上杉治憲敬師郊迎跡(普門院、羽黒神社)」及び同「米沢藩主上杉家墓所」管理に係る補助 ・県指定史跡「林泉寺米沢藩上杉家及び家臣団墓所」、県指定天然記念物「長町裏のエゾエノキ」等の管理に係る補助 ・国指定史跡「一ノ坂遺跡」、市指定史跡同「谷地河原堤防(直江石堤)」等の環境整備(草刈・雑木除去等の実施) ・県指定無形民俗文化財「梓山獅子踊」保存会への補助、県民俗文化財担い手育成支援事業への協力
3. 埋蔵文化財	<ul style="list-style-type: none"> ○埋蔵文化財の情報収集及び周知 ○埋蔵文化財の調査 ○報告書の作成 ○埋蔵文化財の保存・活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・開発事業に伴う事前協議、埋蔵文化財包蔵地における確認調査、大規模開発事業に伴う分布調査 ・個人住宅建築工事に伴う緊急発掘調査(馳上遺跡、台ノ上遺跡第18次) ・米沢市埋蔵文化財調査報告書第129集の刊行(市内遺跡) ・史跡館山城跡保存活用計画策定(2か年事業の1年目) ・埋蔵文化財資料室・埋蔵文化財南原資料室の維持管理

発行 米沢市教育委員会 教育管理課 社会教育文化課文化財担当
 〒992-0012 米沢市金池三丁目1番14号
 T E L : 0238-22-5111 (内線 7530、7531)
 F A X : 0238-21-6020
 E-mail : bunkazai-t@city.yonezawa.yamagata.jp